

「3年間を見通したカリキュラム 及び 教材・指導案の整理」

～数学・社会を中心に～

1 テーマ設定の理由

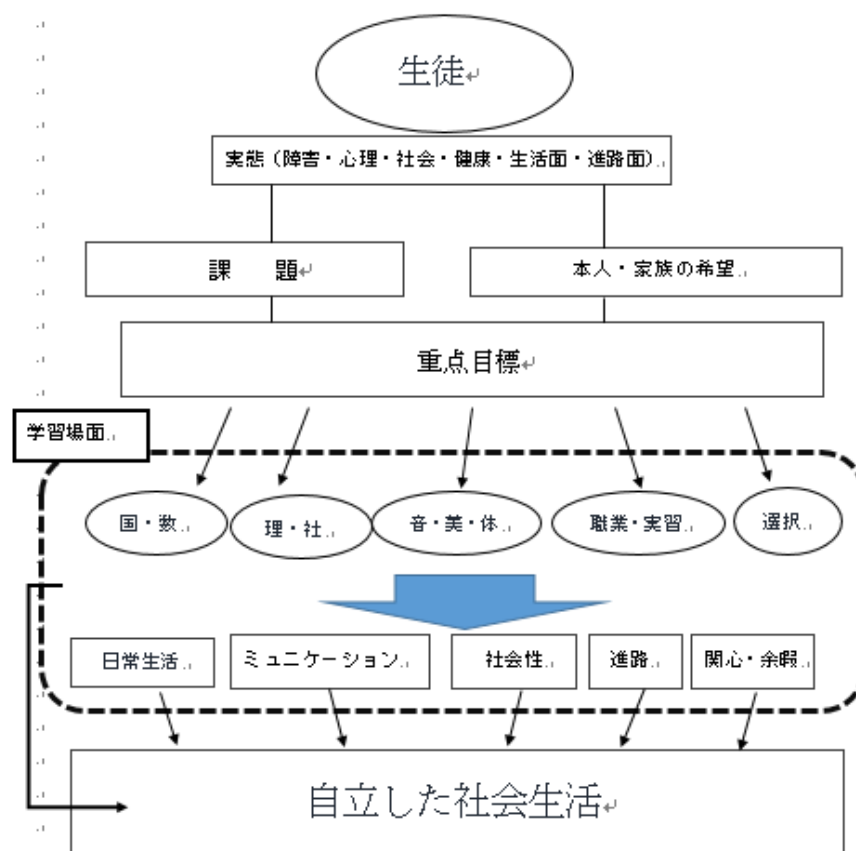
大和東分教室の研究は平成 25 年度より「生徒たちの多面的・多角的な思考を育む」をキーワードに行ってきた。平成 25 年度には連携による授業づくりと共に年間指導計画の書式の見直しを行った。平成 26 年度には本人にわかる目標設定と評価をめざし個別教育計画の書式の見直しを行い、平成 27 年度は「教材・指導案の共有化」について「家庭」「理科」を中心に取り組んだ。

このことを引き継ぎ本年度は「数学」「社会」に観点を絞り、単元設定や教材について学年間で整理検討していくことで分教室 3 年間の指導の系統を整理していく事をねらいとした。

2 研究の方法と経過

今年度の全体研究テーマが「自立に向けた学習内容の共有化」と設定されたことを受け、分教室で行われている教科学習が「自立した社会生活」へ向けてどのような位置づけにあるかを視覚化し教員間でのイメージの共有を図った。

次に、各学年で進められている単元の一覧表作成（資料①）および指導案や資料の整理を行いその資料を基に、「数学」「社会」の教科担当者間の情報交換や検討を行った。



3 考察

昨年に引き続き教科の単元を整理する形の研究ではあったが、今年度の研究テーマに沿って各教科がどのような位置づけで実践されているのかを確かめあうことにより、より卒業後の自立を意識した授業展開ができた。また両教科とも基礎的な内容については通年で積み重ねを行いつつ、行事などに関連付けた単元設定になっていることが3学年間で確認共有することができた。

4 今後の課題

生徒の実態、個人差に合わせてどのように授業を展開していくのか工夫する必要がある。また残りの教科についての整理と分教室としての教育課程の柱を形作ることが今後の課題である。

5 参考文献・資料

- 全国特別支援学校知的障害者教育校長会（2012）「私たちの進路」（日本教育研究出版）
藤原治（2005）「あたらしいほうりつの本」（全日本手をつなぐ育成会）

大和東分教室「数学」「社会」年間単元表

| | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|--------|---------|--|-------------|--------------------------|-------------------------------------|--------|-----------------|---------------------------------------|--------------------|--------------------------------------|----------------|-------------------------------|--------|
| 数 学 | 行事 | 修学旅行 | 宿泊 | 実習 | | 夏休み | 東翼祭 | 学発 | 実習 | 交流フェスタ | | 持久走 サッカー大会 サタデースク ール | 卒業式 |
| | 通年で行う内容 | 100ます計算(1・2年)・順唱・逆唱(2年)・電卓 ナンプレ(3年) | | | | | | | | | | | |
| | 1年 | 学力調査 身近な数学 消費税 カロリー計算 BMI くつ服のサイズ | | 図形 (垂直 平行 分度器の使用) | | 宿 題 | 夏休みの宿題 答え合わせ | 金銭 広告を見て買い物 など | | 単位 | | 時間 | 学年末テスト |
| | 2年 | 分数の考え方 | こづかい帳出納 | レシートの読み 取り レシピ量の計算 | 図形 (形の名 特徴 角度、分度器の 使用) | | 夏休みの宿題 答え合わせ | 所要時間 経路と経費 | 重さと単位 | | 生活費 | | 学年末テスト |
| 3年 | 表とグラフ | 割合の計算 | | 重さ 生活費の計算 | 夏休みの宿題 答え合わせ | | 簡単な方程式 | 平面図形 | 時刻と時間 面積 | | 学年末テスト | | |
| 社 会 | 通年で行う内容 | 時事問題 | | | | | | | | | | | |
| | 1年 | 社会とは 地図 選挙 経済活動 | | | au携帯教室 | 宿 題 | 流通 | 都道府県調べ | 環境とエネルギー | | | 世界の国を調 べよう | 宿泊学習 |
| | 2年 | 経済生活 | | | au携帯教室 | | お金 銀行について | 歴史上の人物 身近な歴史 身近な50年 きょうみのある地域 調べ学習 | | 校外学習羽田空 港 空港について 公共機関 沖縄 | 沖縄の地理 生徒会選挙 | 修学旅行 しお りづくり | |
| 3年 | 沖縄 平和学習 | | 三権分立 選挙権 | 経済活動 au携帯教室 | 電子マネー suica キャッシュカード クレジットカード | | 通帳 印鑑 ATM | 卒業後の生活 身近な法律 | 契約 年金 保 険 手帳の活用 | 公共機関 ハ ローワーク | | | |

＜題材名＞

『契約のきりふだ』

【題材の位置づけ】

社会

卒業学年の社会の授業では働くこととお金のつながりを理解し、電子マネーの扱い方、通帳や印鑑の管理などを扱う。

＜こんなねらいで授業をしました＞

- ① 消費者トラブルの事例を見て、対処法、心構えについて考える。
- ② クーリングオフの制度、相談する窓口、消費生活センターなどについて知る。

＜こんな内容で授業をしました＞

- ① さまざまな消費者トラブルの事例を挙げる。
 - ・街頭で声をかけられて事務所についていき勧誘されるケース
 - ・友達や恋人のふりをして契約をさせるケース
 - ・パソコンで代金を請求されるケース など
- ② ロールプレイをしながら対処法を考える。
 - ・印鑑をやたらに押さない。
 - ・きれいなお姉さんやかっこいいお兄さんにさそわれてもはっきり断る。
- ③ 相談できる機関などを知る。



＜それぞれの自立という点で工夫した点・配慮した点＞※何を自立と考えたか？

- ① 困ったときは福祉サービスや家族、友人などの助けを借りながら、社会の一員として選択決断をして暮らしていける。
- ② 能力に応じて毎日規則的に働き、社会のルールを守り、コミュニケーションを学び、一人の社会人として生活する。

＜考察＞

- ① ねらいは達成できたか？
 - ・身近な契約関係や消費トラブルについて知ることができた。困ったときは周りに助けを借りることや相談する機関について知ることができた。
- ② こんな工夫があるとよかった／こんな取組を次にしたい。
 - ・理解を深める視聴覚教材があれば使いたい。

「指導内容の整理と実践の共有 ～授業シートの活用～」

1 テーマ設定の理由

南分教室の生徒の多くは就労を希望し、一人暮らしを望むものもいる。彼らの卒業後の生活をイメージした時、「将来は親から離れて生活をする。」が大きな目標になると考える。

そのような大きな目標がある一方、生徒の普段の様子を見ると、短期で見通しが持てる授業内容であれば取り組むことができるが、長期的な目標や、苦手なこと、手数がかかることに挑戦したがない、挑戦しようとする姿を他者に見せたくない、つい楽な方に逃げてしまう等、様々な課題がある。

このような中、彼らの「卒業後の生活」に向け、分教室全体でどのような題材が必要か、どのような手だてが効果的か検討し、実践していくこと、また、それらを収集、整理し共有していくことが「自立」に結びつくと考えた。今年度は以下3点を研究の柱とした。

- (1) 将来の自立した生活に必要なスキルの獲得や、実生活に即した内容を踏まえた授業を実践する。
- (2) 授業シートを活用するなど、効果的な指導内容や支援方法を共有し、他学年等の生徒にも効果が期待できる授業の実践につなげる。
- (3) 各授業の指導内容を共有し、3年間を見通した授業計画の構築に向けて、整理・系統化を図るため方向性を構築する。

2 研究方法と経過

研究方法（内容）

- (1) 「自立に向けてのポイント」を確認し、日々の授業計画・授業・振り返りを行う。
- (2) 授業シートの活用（実践例の共有 その1）
実践した授業を授業シートにまとめ、その評価をした。一人2枚ずつ授業シートを作成し、分教室内で「自立に向けてのポイント」や「考察」を中心に共有した。
また、学年ごとにシートの考察欄をまとめた。
- (3) 授業シートの活用（実践例の共有 その2）
前回（実践例の共有 その1）の考察を参考にそれぞれ授業シートを作成し実践した。一人1枚ずつ授業シートを提出し、分教室内で「自立に向けてのポイント」や「考察」を中心に共有した。
また、学年ごとにシートの考察欄をまとめた。
- (4) 指導内容の整理と共有（データの蓄積と整理）
各教科の指導案や教材をデータで集約・整理し、各教員が参考できるようにした。
また、各教科の授業の実践例（指導案等）を時系列で整理した。

3 考察

今年度の取り組みで、「生徒にとって何が自立か、どのような力を育てたいのか。」について、各教員が考える教育観を分教室全体で確認し、それぞれの学年として考える自立、自立に向け育てたい力を検討し授業を展開することができた。そして、授業の振り返りを定期的に行い、その内容を共有することができた。また、授業案、授業シートなどのデータを収集することができた。先に挙げた研究の柱(1)、(2)について概ね成果を得ることができた。

以下、各学年における「自立に向け育てたいこと」についての考察を参考にあげる。

(1) 1年

不快に思う言葉遣いについては気づきにくいため「イエローカード」を導入し、友だち同士で注意し合える環境を整えた。授業においてもグループ活動を導入することで、徐々にわからない部分を生徒同士で教え合うようになった。

今後、教員などの年長者への言葉遣いや一斉指示の際の話の聞き方などが身につけられるとよい。

(2) 2年

覚えるポイントを絞り、内容を明確にすることで生徒が負担を感じず、意欲的に学習に取り組むことができていた。実験的なこと、映像を用いた授業、時事問題に関する学習に興味関心を示した。興味関心のあることには反応が良かったが、そうでないものに対する学習には意欲を欠くこともあった。励ましや動機づけによっては取り組めることもあった。コミュニケーション能力はロールプレイングなどを用い、より実地的な状況で行えると良いと感じた。

(3) 3年

時事問題に関しては生徒が興味を示しやすく、授業内の発言が活発になり、授業後においても授業内容の話をする等、効果的であった。また、生活の知恵とその仕組みにも興味を示した。数学においては、作業班バザー等である会計の練習としてお金の計算問題を提示すると、意欲的に取り組んだ。興味が無いと感じると学習への意欲が著しく下がるため、様々な授業においてこれからする授業内容がどの様に実生活に繋がっているか、またその重要性を最初に示すことがスムーズな授業展開へ繋がること分かった。

4 今後の課題

今年度の研究では、研究の柱(3)について、ある程度の指導内容の方針、方向性の整理はできたが、「3年間を見通した授業計画」「系統的な指導」の整理には課題が残った。

今後のテーマは「社会参加のための準備として考えられること」「人生を明るく楽しいものにする」ためにどの段階でどのような指導を行っていけば良いかさらに検討、整理し実践していくことと考える。

5 参考文献・資料

生徒指導を理解する～『生徒指導提要』入門～

＜題材名＞『肌・髪ケア』

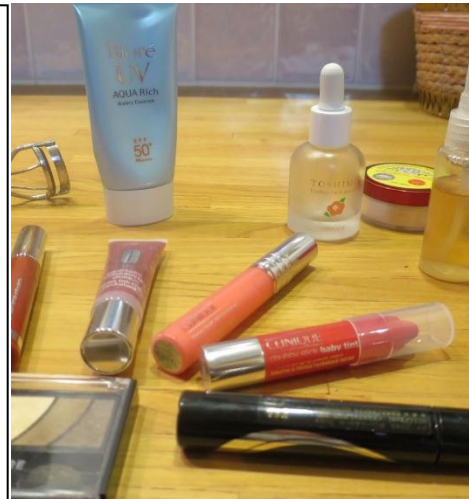
【題材の位置づけ】理科（健康な生活）

＜こんなねらいで授業をしました＞

- ① 1月12日にファンケルの方に身だしなみの大切さの授業をしていただいたので、繰り返しその大切さを伝える。
- ② 化粧水・乳液・リンス・コンディショナー・トリートメントの働きを知り、効果的な使い方を知る。
- ③ リップクリーム・ハンドクリーム・乳液・コンディショナーの違いと効能を知る。
- ④ ドライヤーの弱・強・冷風の使い方を知る。

＜こんな内容で授業をしました＞

- ① ファンケルの方から教えていただいた身だしなみの大切さを確認。日頃からできる肌と髪ケアの方法へと繋げる。
- ② 肌と髪ケアに使う道具の働きを知る。正しい使う順番とその理由を考え、知る。
- ③ リップクリーム、ハンドクリーム、乳液、コンディショナーの成分の違いとその理由を知り、場合によっては違う場所にも使えることを知る。
- ④ ドライヤーの正しい使い方とその理由を知る。



＜それぞれの自立という点で工夫した点・配慮した点＞

※何を自立と考えたか？

社会生活において自分で身だしなみを整える

- ・肌と髪ケアを自分でできるようにするため、最低限のケアと最大限のケアを分けて紹介。
- ・身だしなみを面倒と感じる生徒もいるため、ほんの一手間だけでできるケアを強調。（ケアの習慣の無い生徒に対し、自分にもできそうと感じさせることを意識した。）

＜考察＞

①ねらいは達成できたか？

- ・道具の髪や肌への働きを理解することで、使用法を考え、正しい使用順を導き出すことができていた。また日頃のケアや身だしなみについて考えることができていた。
- ②こんな工夫があるとよかった／こんな取組を次にしたい
 - ・少し時間をおき、何処までケアを実践しているか確認したい。次は実際にドライヤーを使って寝癖を直す授業を行い、自分で身だしなみを整えることを意識させたい。